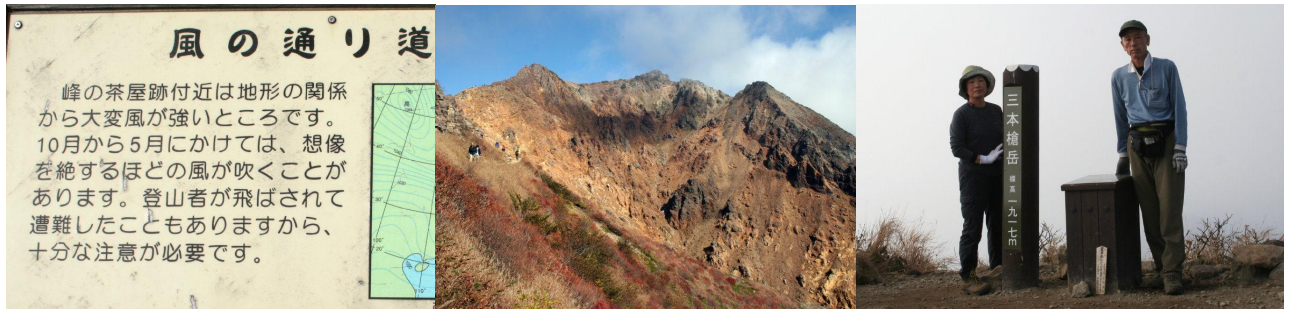


# 那須岳山行記録



峰の茶屋の看板

朝日岳方向

三本槍岳山頂で

目的地	那須岳	期 日	平成22年10月23日(土): 晴れ
山人	笠原正雄・澄子	特 記	3年前の5月に強風で戻された山のリベンジ山行。

地名	時刻	記 事
那須高原線 路側駐車	午前 9:50 発	ロープウェイ山麓駅手前から車が渋滞。そして、駐車場は満車のアナウンスがあった。Uターンしてどうにか横浜ナンバー車の後ろに駐める。
山 麓 駅	10:05 発車	峠の茶屋から歩くかロープウェイに乗るか直前まで決め兼ねていたのだが、車が進めないのではしょうがない。片道1人 650円。観光客もあり満員。
山頂駅歩き出し	10:12	駅舎を出たときはガスが掛かっていたが、途中で青空となり茶臼岳が映える。
ベストを脱ぐ	10:22	登り途中陽ざしを受けて暑くなる。立入禁止ロープの張り直し作業施工中。
茶 臼 岳 山 頂	10:45~10:50	大勢で賑わっている。青空にどンドンガスが上がってくる。牛ヶ首方面は雲で見えないが、上空は良く見える。宿で出た塩羊羹を食べる。
峰の茶屋通過	11:15	お鉢廻りで下る。「風の通り道」の看板を読む。北温泉に下るので時間的に窮屈である。急ぎ足で進む。先回風で戻された所に来た。大勢が上り下りしている。
朝 日 岳 分 岐	11:42	広場になっていて、大勢が休んで居た。ザックを置いて空荷で朝日岳に向かう。
朝 日 岳 山 頂	11:52	良く見渡せ、茶臼岳の山腹から噴煙が上がっているのも見える。地元の人と思われる男から三本槍岳、清水平、そして北温泉に下る尾根を教わる。
朝 日 岳 分 岐	12:00~12:40	戻って広場のテーブルベンチでパンと湯を沸かしポタージュスープでランチ。
熊見曾根過ぎ	12:55	三斗小屋分岐の熊見曾根のピークはトラバースしてしまった。ここに環境省の立派な台座に「熊見曾根 0.3 km」と標されていた。ここから清水平に 0.4 km で下る。
北 温 泉 分 岐	午後 1:15	木道の清水平を過ぎ分岐に着く。数個のザックがデポされていた。それに倣って我々もザックデポで左へ三本槍岳に向かう。途中大団体や数隊とスライドするが、一人の男が山頂では良く見渡せたと言っていた。
三 本 槍 岳	1:35~1:45	三斗小屋からの夫婦が居た。写真を撮って貰う。先ほどまで良く見えていたと言っていたが、我々が着いたときは雲で覆われていた。立派な山座円盤があり、粟ヶ岳・守門・浅草岳の記述もあった。下に見える市街地は下郷町だと聞いた。
北 温 泉 分 岐	2:03	北温泉まで 5.1 km の道標。この時間になると人影もまばらとなる。
赤面山分岐通過	2:22	手前の裸地化した所が右に下っている。赤面山へと直進の道標がある。その通り進んだが、間違えるといけないと思い、右に下っている箇所を確認に戻ってみた。それは道では無かった。地図を出して赤面山を確認し、再び直進に戻る。
金 網 の 下 り		土石の保持のためだろうが、登路に番線ネットが張り詰められている。その下りは足が引っ掛りそうに思われ、嫌な感じだ。数人を追越す。
コーヒープレイク	2:55~3:05	ブナの落ち葉の広い道。木漏れ日で気分良く下る。好位置で休む。湯を沸かしコーヒーを飲む。その間、追越した数人が通り過ぎて行った。
スキー場分岐	3:07	軽装の遊歩道散策の人々が居る。右に下る。北湯までの距離表示が道標により増減してまちまちだ。
北 温 泉 着	3:45	直前で三本槍岳の登路でスライドした 25 人の団体を追越す。温泉の露天風呂に数人の男が入っている。下りて来た山腹を振り返れば紅葉が盛りだ。
北 温 泉 駐 車 場	3:52	全面工事中だった。車回収に1時間ほど掛かるだろうと覚悟していたが、高原線バス停付近で妻がヒッチハイクに成功。駐車地点まで乗せてもらった。
駐車地点に戻る	4:10	大丸園地の大駐車場に下り帰り支度をする。9時ころ帰宅。

今度は晴れで風も無く穏やかだった。先回は体が飛ばされそうな風を受け、帽子が瞬時に風を持っていかれた。戻された地点から上部は尾根が痩せてきて岩場混じりの急登路であった。その様子から戻って正解だったと納得した。  
ロープウェイもあり、また、三斗小屋温泉も人気で沢山の人で賑わっていた。ただ、朝日岳の分岐を過ぎると幾分人数が減る。清水平以降と北温泉へ下るルートは火山の荒々しさに反して優しい表情の山であった。